

# 事業所における自己評価結果(公表)

公表：令和5年3月22日

事業所名 すみだ福祉保健センターみつばち

チェック項目		はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	① 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	11	11	・机やパーテーションで区切っている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導に必要な教材準備等のスペースが少なく、稼働率に対して非効率。</li> <li>・指導訓練室が少なく各部屋が広すぎる</li> <li>・大型遊具を使用する際は広い方が良い</li> <li>・静的な活動・動的な活動でスペースを区切れると良い。</li> <li>・定員最大数の時は、時間枠全て埋まるので消毒や片付け換気が十分に行えない。</li> <li>・個別の部屋が足りない。</li> <li>・利用者数が増加傾向にあるため、指導室スペースと職員配置の検討が必要。</li> </ul>
	② 職員の配置数は適切であるか	8	14		<ul style="list-style-type: none"> <li>・求められている内容に比して数値化されにくく業務過多。担当者に責任の負担が多い。</li> <li>・職員不足</li> <li>・事務室や作業スペースに比して職員が多すぎる</li> <li>・集団を主務とするセラピストがいても良いのでは。</li> <li>・法的なところでは適切かもしれないが、不足しているところはある。</li> <li>・集団療育の利用児に個別対応が必要な児が多いので、職員も増やして欲しい。</li> <li>・今後足りなくなる。建物設備上の限界から職員を増やして改善できるものではない。</li> <li>・特定の職種の人員配置が多く、部屋数・パワーバランスなどが不均衡だと感じる。</li> <li>・利用者数が増加傾向にあるため、指導室スペースと職員配置の検討が必要。</li> </ul>
	③ 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか	13	9	<ul style="list-style-type: none"> <li>・物が気にならないようにカーテンや棚に置き気にならないようにしている。</li> <li>・建物構造上バリアフリーは困難である。それ以外では掲示・サインで工夫している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各部屋は、部屋ごとに色分けや名前分けしているとわかりやすい。</li> <li>・はばき福祉園との共有スペースが多く、構造化が出来ていない。共有スペースの刺激が多すぎる。</li> <li>・入り口や床やトイレなど段差が多く配慮が感じられず、設備なども古い。</li> <li>・段差は改善した方が良い。</li> <li>・廊下の掲示物が多いので、利用者には伝わっているのか。</li> <li>・施設老朽化に伴い、設備改修等の必要がある。</li> </ul>
	④ 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか	15	7	<ul style="list-style-type: none"> <li>・清掃や消毒はルーティーンで行なっている。</li> <li>・消毒を徹底している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・部屋によっては収納スペースの関係かカーテン内に物がたくさんある。</li> <li>・活動後の換気・消毒で精一杯。</li> <li>・建物が古く、カビなどの問題が多い。</li> </ul>
業務改善	⑤ 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか	20	2		<ul style="list-style-type: none"> <li>・PDCAの定着が必要。管理職との共有が難しい。</li> </ul>
	⑥ 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	18	4		<ul style="list-style-type: none"> <li>・管理職との共有が難しく、業務改善に繋がらない。</li> <li>・アンケートを取っているが改善に至らないところも多い。</li> <li>・増加する利用者や利用回数増を望む意向の調節は困難。</li> </ul>
	⑦ 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	21	1		
	⑧ 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか	18	2		
	⑨ 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	21	1		<ul style="list-style-type: none"> <li>確保はされていると思うが、一人一人の計画が必要。資質向上のための研修になっていない。</li> </ul>
⑩ アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか	22	0			

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
適切な支援の提供	⑪	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	20	1		何をもってツールなのか共通認識を改めて確認した方が良い。
	⑫	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	21	1		・地域支援の目標設定は十分とは言えない。
	⑬	児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	22	0		
	⑭	活動プログラムの立案をチームで行っているか	21	1		・集団療育で行なっている。
	⑮	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	22	0		・集団療育で行なっている。
	⑯	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせさせて児童発達支援計画を作成しているか	21	1		・個別が年4回ではなく児によってはそれ以上の回数が必要。 ・集団療育で行なっている。
	⑰	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	19	2		・何をもって打ち合わせとするのか、共通認識を改めて確認した方が良い。
	⑱	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	18	3		・何をもって打ち合わせとするのか、共通認識を改めて確認した方が良い。
	⑲	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	22	0		
	⑳	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断しているか	22	0		
関係機関や保護者との連携	㉑	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	18	2		・相談支援事業が足りず、9割以上の利用児がセルフプラン。 ・当事業所はセルフプランがほとんどのため、現状での児童が該当するのかが確認した方が良い。
	㉒	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っているか	22	0		
	㉓	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っているか	17	0	・昨年度より地域連携会議などに参加し始めた。 ・医療的ケア児相当の児童の受け入れに際し、必要物品を備え、地域連携会議に参加するなど体制を整えている。	
	㉔	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えているか	15	1	現在は「医療的ケア児相当」であるため今後必要性に応じて体制を整えていく。	個人情報保護の観点から医療機関との連携が難しいことがある。また、医療機関側の体制上難しいことがある。
	㉕	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	22	0		
	㉖	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	21	0		学齢児については、現状本年度は利用頻度が低く、実施はない。しかし、今後必要性に応じて密に行う体制である。
	㉗	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	15	6		指定管理機関として区とは連携しているが、他区の情報などは不足している。 通常業務が多く研修参加の時間を確保できない。 地域療育連絡会があるが、コロナ禍でここ数年開催されていない。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
携	⑳	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか	10	11	・勉強会などで交流。	・何をもって交流とするか、共通認識を改めて確認した方が良い。
	㉑	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども子育て会議等へ積極的に参加しているか	17	3		
	㉒	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	21	1		
	㉓	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレントトレーニング等)の支援を行っているか	14	6	・ペアレントトレーニングを題材とした書籍の案内や実施機関の情報提供を行っている。 ・保護者勉強会の開催。	・療育担当者による。
保 護 者 へ の 説 明 責 任 等	㉔	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	18	2		・丁寧に行えているかは保護者の感じ方によるため不明。
	㉕	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか	22	0		
	㉖	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	21	1		
	㉗	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	19	3	・概ね月1回の保護者交流会がある。 ・保護者交流会の実施。	
	㉘	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか	21	1		体制としては整備されていない。
	㉙	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	22	0	・みつばちだより、セコムメール、ホームページ、館内掲示	
	㉚	個人情報の取扱いに十分注意しているか	21	1		
	㉛	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	22	0		
非 常 時 等 の 対	㉜	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか	19	3		・避難訓練のみ。集団からの実施。 ・十分とは言えない。改めて確認した方が良い。
	㉝	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	21	1	・集団療育や法人全体で行っている。	・集団からの実施。
	㉞	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか	21	1		
	㉟	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	22	0		
	㊱	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	22	0		

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
応	④⑥	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	21	0	・今後実施予定。 ・職場内研修の実施 ・虐待防止委員会の実施	
	④⑦	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか	22	0		

○この「事業所における自己評価結果（公表）」は、事業所全体で行った自己評価です。